

バリ宣言（仮訳）
ビジョン・3ゼロ～渋滞ゼロ、公害ゼロ、及び事故ゼロ～
アジアにおける次世代交通システムに向けて

我々、アジアE S T地域フォーラムの加盟各国の代表（アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、中華人民共和国、インドネシア、インド、日本、大韓民国、ラオス、モルディブ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、フィリピン、パキスタン、ロシア連邦、スリランカ、タイ、東ティモール及びベトナム）、国際機関、2国間及び多国間援助機関、非政府組織（NGOs）、研究機関及びそして持続可能な交通部門における専門家は、インドネシア・バリにおいて2013年4月23日から25日にかけて開催された、第7回アジアE S T地域フォーラム及び、ポスト2015年開発目標における持続可能な交通に関するグローバルコンサルテーションに集い、アジアにおける環境的に持続可能な交通の推進に従事するすべての人々にさらなるひらめきと激励を与えるため、「バリ宣言-ビジョン・3ゼロ～渋滞ゼロ、公害ゼロ、及び事故ゼロ～アジアにおける次世代交通システムに向けて」を採択する。これは、死亡、渋滞、公害を容認しないことによって実現されるものである。

2010年8月23日から25日にかけてタイ・バンコクにおいて開催された、第5回E S T地域フォーラムにおいて参加者らが合意した「バンコク宣言2020」における持続可能な交通目標（2010～2020）に対するコミットメントを想起し、

より持続可能な旅客輸送及び物流交通のシステムやサービスに繋がる、環境保護的、安全、経済効率的、かつ社会的に平等な、交通政策、プログラム及び対策等を開発し実施するため、国際社会に対して意義ある枠組みを提供するものである、2012年国際連合持続可能な開発会議（リオ+20）の成果文書、「我々の望む未来（The Future We Want）」に留意し、

自然災害（洪水、地震、津波、サイクロン、地滑り、火山噴火、高潮及び異常気象現象）の頻度及び規模がアジア各地を含む地球規模で増加傾向にあり、また交通インフラ及びサービスが気候変動の影響に対し脆弱である、ということを確認し、

当該地域における大多数の発展途上国及び都市では、気候変動への耐性、緩和及び適応を、自らの交通（インフラ及びサービス）政策、計画及び開発において不可欠なものとするに至っていない状態にあるという懸念を提起し、渋滞ゼロ、公害ゼロ及び事故ゼロを目指したアジアにおける次世代の持続可能な交通システムの導入促進を容易にするた

め、発展途上国に対する財政支援、技術移転、能力開発及び組織強化に関する既存のコミットメントを先進国が果たすことの必要性を認識し、

1．我々は、渋滞、公害及び交通事故ゼロを特徴とする21世紀都市の実現という共通のビジョンに貢献するとともに、気候変動への耐性を有し、国や都市それぞれの事情に応じた、より持続可能な交通政策プログラムやプロジェクトを自発的に開発及び導入する、という意志を表明する。

2．気候変動に対する課題に取り組み、持続可能な開発を実現する上で、持続可能な交通が重要な貢献となることを認識する、ポスト2015年開発目標を要請する。

3．自発的かつ法的拘束力を持たない「バリ宣言」を以て、バンコク宣言2020を補完することを推奨する。

4．3ゼロというビジョンを共同で促進していくため、関係各国間での緊密な協力を要請する。

5．先進国及び多国間機関に対し、環境的に持続可能な交通を前進させるため、財政支援、技術移転、専門知識や経験の共有に関する既存のコミットメントを果たすよう要請する。

6．多国間金融機関に対し、環境的に持続可能な交通に対する、より包括的な政策の採用を要請する。

7．持続可能な開発を扱う関連する国際会議に対し、持続可能な交通に、より重大な関心を払うことを要請する。